

令和4年度

事業報告(案)

社会福祉法人白老宏友会

指定障がい福祉サービス事業

多機能型事業所 ポプリ

C

C

目 次

I、はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～3

II、就労継続支援B型事業・・・・・・・・・・・・3～6

III、生活介護事業・・・・・・・・・・・・・・6～7

○ IV、日常生活支援・・・・・・・・・・・・・・7～8

V、健康管理・・・・・・・・・・・・・・9

VI、給食業務・・・・・・・・・・・・・・9

VII、管理業務・・・・・・・・・・・・・・9～10

VIII、利用関係状況報告・・・・・・・・・・・・11

添付資料 年間活動一覧・・・・・・・・・・・・12～13

○

## I はじめに

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染防止対策に重点を置き、日中活動及び各種行事などについては、安全に留意し事業の運営を実施しました。法人においては、引き続き必要に応じて対策委員会を開催し、施設におけるクラスターの実例や国が示す指針を基に、定期的に利用者、保護者、関係職員へ啓発を促しました。日常的な対策として館内消毒をはじめ保健衛生品の備蓄、人命第一を課題に業務に取り組みました。ワクチン接種の推進やウイルスの弱体化により重症化リスクは下がり、行動制限などの発令はされなかったものの12月法人内でクラスターが発生し、GHにおいては、地域生活支援センターと連携を取り、感染者への介護、体調が回復した利用者の対応としてGH内にて日中支援を行いました。

社会情勢においては、新型コロナウイルス発生より3年が経過。コロナショックによる世界経済に与えた影響は計り知れないものであり、国内においても、株価の暴落、企業の倒産、失業者の増加、経済停滞など今もなおその爪後を残している状況にあります。更にロシアによるウクライナ戦略戦争の影響により物価、燃料、電力の高騰に加え半導体不足が発生し国内の経済に大きく影響を及ぼしています。

就労事業では、中央競馬馬主社会福祉財団の助成金に申請し採択を受けるも、部品不足により納入日の先延ばしが続き結果年度を跨ぎ令和5年度6月の設置を予定している状況です。

(助成金75%：1,980,000円 自己資金660,000円就労設備整備積立金取崩)

近年、利用者の重度高齢化が進み、個人の特性や疾患に適した他事業所への移動や、事業所内において就労事業から生活介護事業へ異動する利用者が増えている状況にあります。

サービス等事業収入(訓練等給付費)については、生活介護事業へ2名の異動により前年度と対比すると減収している状況にありますが、利用率の向上により予算を達成することが出来ました。生活介護においては、2名の増員がりましたが、特性や疾患の関係により2名が他事業所への移動にあたり退所し結果、利用率や区分などの向上により両サービス区分共に当初予算に近い実績を収めることが出来ました。

就労事業の運営状況については、コロナ禍の行動制限などの緩和が進むにつれ社会経済が動きはじめ、インバウンド需要も高まり白老町をはじめ国内外から多くの観光客が訪れました。円安の影響もあり多国からの観光客の姿も見られ、大町に構える『ベーカリーショップななかまど』をはじめ、特にウポポイ内のテナント『sweets café ななかまど イレンカ』においては、4月から11月まで観光客や修学旅行生で館内は賑わいを見せ令和3年度との対比では倍の売上を収めることが出来ました。『ベーカリーショップななかまど』については、開業30周年記念を祝し店舗を支えてくれた地域の方への謝恩の想いを込め感謝祭を開催し多くのお客様が店舗へ足を運び大盛況に終わることが出来ました。

清掃部においては、公共の施設内での活動ということもあり、感染予防対策に十分留意し取り組んできた他、給食事業を含む食品事業については日常的に衛生管理や食中毒防止対策に努めました。就労支援活動収入については、前年度対比117%を達成し約227万円の収支差益を収め、利用者の月額平均工賃についても、報酬単価枠である35,000~45,000円内の36,446円を支給することが出来ました。

生活介護については、引き続き『個別支援』に課題を置き、療育活動、創作活動、知育活動、レクリエーション、生産活動など従来の活動に加え、個々の利用者の特性や体力面を考慮し、新たな活動内容を模索してきました。社会情勢を鑑み感染防止対策に留意しながら段階的に外出活動を再開しました。感染者数が増加している時には、可能な限り閉鎖的な生活にならぬよう創作活動として四季を感じてもらえるように館内の装飾づくりを利用者みんなで行うなど創意工夫を凝らし充足した生活となるよう取り組みました。利用者の日常的な健康管理として看護師による日常的なバイタルチェックなど見守り行ってきました。設備整備については、大型モニターを設置し、モニターを通じて日課や行事予定を伝達するなど、心穏やかに過ごしてもらえるように映像に合わせオルゴール曲などを流し情緒の安定を図りました。

生産活動については、自所製品の製造を主体とした事業の定着を目指し、引き続き自家焙煎珈琲豆、野草茶の売上向上を課題に取り組みました。令和4年度は、『sweets café ななかまどイレンカ』の集客率が高く、就労事業同様に珈琲、野草茶製品の売上を伸ばすことが出来ました。また、観光客向けのお土産製品として野草茶4種類の包装形態を一新し発売することが出来ました。就労事業収入においては、当初予算に近い売上実績を収めることが出来ました。また、法人内でクラスターが発生し、感染拡大を防止すべく24h型GH利用者の日中活動を一時的にGHに移し地域生活支援センターあぶると協力体制の中、個々の利用者の特性に合わせた支援を行いました。在宅の利用者についても、利用者、保護者の意向に則し利用受入れを行いました。

施設整備では、生活介護内の作業場拡張工事に伴い、1階の休憩スペースが縮小したことから、食堂内の一角にソファなどを設置し新たな休憩スペースを設けました。パン工場については、原料、製品の在庫保管庫が不足していることから北側車庫内にプレハブ冷凍庫を増設しました。また、老朽に伴い工場内空気清浄機のリース契約を行いました。衛生管理を目的にパン工場、ななかまどにまな板、包丁殺菌庫を設置しました。生活介護については、包装資材専用プリンターと大型モニターを設置。整備や老朽化において必要なものについては、修繕及び更新を行いました。

職員の研修への参加については、感染防止対策として対面での研修を自粛し、可能な限りWEB研修への参加を行いました。また、災害時や緊急時に備えた訓練を実施しました。

職員の育成については、以前より課題としている近い将来を見据えた定年退職者などを含む予測を立てながら、専門職としての知識、技術の継承などを含め計画的に体制の確保に努めてきました。当事業所に限らず法人規模が大きくなるほど、職員のモラルの適正化や職務に対する意識の向上の課題が大きくなっており、幹部職員をはじめ組織全体で意識改善に努めていく必要があり、人材育成、相互育成を踏まえ、支援の質の向上、安定運営への取り組みを重要視してきました。また、人事考課制度については、引き続きインセンティブの付与を基本に人材育成を目的とし、職員の状態の把握や、課題の整理、スキルの向上に努めました。その他、LINEアプリを活用しタイムリーな情報の共有を図るため『報・連・相』の定着、連携とチーム力向上を課題に継続的に取り組みました。

法人初となる特定技能外国人の雇用の状況については、男性2名を採用し、1名をみらいえ、1名をポプリにて受け入れました。文化の違いを尊重し充実した雇用環境になるよう法人全体で協力し取り組んできました。インドネシアでは定着していない障がい者支援、慣れない環境

での生活に心配されることが多々ありましたが、それぞれが抱く信念は私たちが想像していたよりも強いものでした。個人のひたむきな姿勢と努力の成果もあり、利用者支援はもちろん語学力も日々進歩を遂げている状況です。現在はPCを使用し支援記録などにも挑戦をしています。引き続き成長を見守り育成していきます。

以上、令和4年度につきましては、法人が一丸となり引き続き新型コロナウイルスと向き合いながらの多難な一年でありました。コロナ禍が緩和されてきていることもあり、社会経済が以前のように回復することを願うばかりですが、この3年間新型コロナウイルスによる社会経済に与えた打撃は想像以上に大きく、一方 戦争による物流難による物価の高騰や電力の高騰は、この先も事業運営にかなりの影響をもたらすものと思われまます。次年度におきましては、引き続き利用者・職員の安全を第一に感染予防対策並びに節減に意識を向けていくと共に、近年多発している自然災害に注視しその備えを課題としていきます。

## II、就労継続支援B型事業

### ■就労事業概要

就労活動の充実と豊かな生活を営むために、主体的に利用者が活動に参加し、財源となる就労活動収入を確保し工賃向上を目指した。

令和4年度は、アフターコロナが見込めず社会情勢がどのように変化していくか予測が立たない事から、前年度売上(79,565,133円)実績を踏まえ、就労食品事業(給食部、清掃部含む)の目標売上金額を79,500,000円に設定した。結果、全国的な新型コロナワクチン接種の普及に伴い発症率が抑えられ経済活動が本格的に動き出したことから、令和4年度の就労事業収入実績は93,626,531円を収め、収支差額が2,273,832円となり、工賃変動積立金1,847,120円と設備整備積立金426,712円の積み立てを行った。利用者工賃については20,191,183円を支出し、月額平均工賃36,446円(前年度35,158円:1,288円の増額)を支給した。

### ■食品事業

令和4年度については、引き続きお客様に愛される店舗づくりを目的にクオリティの高い製品作りと安心な製品提供の課題を立て、毎月一回の就労会議を開催し、課題(店舗販売、製造、衛生管理、健康管理など)の振り返りや売上状況などを把握し、全体で共有を図りながら意識を高めてきた。また、安全に利用者や来店客が利用できるよう、今年度もHACCPに基づき衛生管理の実施と、外部委託(株式会社ダスキン)による衛生検査を5月と12月に行い、衛生状況の把握と改善、維持に努めてきた。

ポプリ内パン工場においては、ななかまど店舗や取引先(病院関係、学校給食、老人福祉施設、保育園、各飲食店や宿泊施設)のパン、菓子類、餅類の製造を行った他、国立博物館ウポイ(民族象徴空間)内のsweets caféななかまどイレンカに販売する製品(主力商品、お土産製品)の製造を行った。また、白老町ふるさと納税返礼品事業とななかまど店舗直送販売事業を令和4年度も行い事業収入の確保に努めた。札幌きたキッチン(外部販売)については、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ販売活動を中止し、新さっぽろ店にて毎週水曜日にパン製品の受注販売を行った。製造面においては、安定的な製品の供給が出来るよう原料の保管や在庫の保管場所としてプレハブ冷凍庫を北側車庫内に増設した。その他、製造工程を見直し利用者の作業技術の向上を図り、生産効率向上に繋げた。また、HACCPに基づいた衛生管理表を

用いて、安全に食品事業が行えるよう衛生チェックの習慣化と、健康管理を行い状態の把握に努めた。新製品開発については市場へ目を向けるなど顧客ニーズを大切に求められる製品づくりに取り組んだ。

ななかまどについては、親切・丁寧な接客、安定した品質の定着を図り、集客、売上の維持向上を目指し取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染防止として引き続き来店時の対応（入店人数の制限）検温、アルコール消毒、イートインスペースの閉鎖、レジカウンターにアクリル板、空気清浄機（プラズマクラスター）を設置し対策とした。

活動収入の安定と増収を目的に、一部製品の値上げを行った他、InstagramやLINE公式サイトを開設し、店舗のイベント等の情報発信を行った。食品ロス問題解決に向けた取り組みとして、店頭のパンを冷凍で発送する通信販売（リベイク）を継続的に実施した。

また、30周年記念感謝祭では、3年ぶりに特設会場を設け多くのお客様が来店し賑わいを見せた。催事の目玉製品として『シフォドラ』や『北海道なまらチーズプリン』を発売した他、地域共生を課題に取り組んだ『白老町の小学生が作るアイデアパン企画』では応募者の中より採用したパンを数量限定で販売し大好評であった。また、10年前の周年企画において当時町内の小学4年生を対象に自分に宛てた手紙を成人式に手渡す催しを行い、ほぼ対象者全員に手渡すことが出来た。幼かった頃を振り返り自身が書いた人生計画と今の自分を比較し成長を実感する姿が見られ、成人式に合わせ飛躍につながる良い企画となった。

sweets café ななかまどイレンカについては、感染症対策を行いながら主力製品（カップケーキ、アップルパイ）を始め、お土産製品や自家焙煎珈琲、愛泉園製品の物販を行った。「ここにしかない」付加価値のある製品を提供するため、北海道、白老近郊の食材を使用した製品と、新製品のフロート、イチゴクンネカップソフトを販売し、売上向上に努めた。感染症対策として入店制限、アルコール消毒、N95マスクの着用、店内消毒などを実施した。

以上の事を踏まえ、将来的に利用者が安心して『働ける環境を確立』し、豊かな生活を営むための『工賃財源の確保』を保持していくためにも、民間企業同様の視点を持ち、時代の流れを絶えず察知しながら新しい物に目を向けた事業運営と危機感や探求心を持ちながら取り組む姿勢が不可欠であると考え。令和5年度については、コロナ感染症分類が5類に引き下がりインフルエンザと同様の扱いとなるため、町内外のお客様やインバウンド需要が高まり更なる経済効果を期待出来る場所であるが、戦争やパンデミック、気候変動などの影響で食料危機や物流難により更なる物価高騰が懸念される。就労事業としても今後の社会情勢を注視しながら柔軟に対応して行けるよう運営していく。また、引き続き感染症対策を行いながら更なる発展が遂げられるように、全体が共通認識を持ち定期的に課題の整理を行いながら着実に前進していけるよう努めていく。

#### 1) 利用者支援

利用者主体の就労現場を意識し、利用者個人が就労意識や自立心を高め、就労活動を通じて社会性を養っていけるような環境づくりに努めた。就労活動において、個人が抱える問題や悩み、また課題を明確にし、利用者一人ひとりが想いを主張し、目的に則した形で活動を行っていけるように、定期的に利用者会議を行うなど、個人目標を立ててもらい活動を行ってきた。

個別の支援では一人ひとりの障がい特性を理解し、得意とする作業内容を選定し技術の習得

と向上に努めた。技術の習得や成長には個人差は見られるが、社会性及び作業性共に個々の成長が見受けられた。

令和4年度については、更に利用者の主体性を高め、同時に作業意欲の向上を目指していくため、個人の特性を踏まえ自己判断、意思決定に意識を向けながら支援を行った。新作パンの開発企画として、利用者が考案したパンを職員がサポートしながら開発し、販売した。また、新型コロナウイルス感染状況を見ながら就労学習会として食事マナーや活動の振り返りを行った。視察研修（苫小牧方面と登別方面のパン屋・スイーツ店見学）を企画し、感染防止（マスクの着用、アルコール消毒、検温など）に努めながら各部署少人数で実施し、社会性や就労意識の向上に繋げた。

## 2) 衛生保持、危機管理

食品を取り扱う部署としての意識を高めるため、日常的に必要な情報、知識等を適宜周知し食中毒や異物混入の防止に努めた。また安全な食品提供を行うため、作業場内の衛生保持に努め、白衣の点検、うがい手洗いの徹底を図った。

危機管理においては、基本的に危険な機器を扱う部署でもあるため、機械の使用については職員の許可がある者に限定すると共に、取り扱いの注意を随時促すなど予測できる危険、事故については日常的に職員が目を配り事故防止に努めた。

## 3) 設備整備

パン工場：①プレハブ冷凍庫・・・1台増設  
②電力監視モニター・・・取替  
③プラストチラー・・・修理  
④冷却室エアコン・・・1台更新  
⑤まな板殺菌庫・・・1台設置  
⑥業務用空気洗浄機・・・2台更新  
⑦灯油ボイラー・・・1台更新

ななかまど：①電動マルチスライサー・・・1台更新  
②まな板殺菌庫・・・1台設置  
③コアクリーン・・・1台更新  
④作業場内エアコン・・・2台更新  
⑤2階事務所ストーブ・・・1台更新

## ■給食事業部

就労事業として給食業務の実施を行い、利用者2名の個々に合った作業を提供することにより、技術の習得や責任感が育ち、出勤率の向上を図ることができた。また、給食会議に参加することにより職員との意見交換ができ、作業意欲の向上、社会人としての在り方を考えるきっかけとなった。利用者さんの健康面を考慮し、特別食（肥満食、刻み食など）の提供を行った。毎年行っている行事食（焼肉・流しそうめん）については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止とした。

作業面においては、安全面に配慮し、衛生管理の徹底を図った。特に食中毒に細心の注意を払い、手洗い、消毒、適正な処理等、事故防止に努めた。

調理以外の作業として布巾縫いを行い、実生活でも役立つ練習につながった。



## ■施設外就労

令和4年度も施設外就労として総合福祉センターいきいき4・6の清掃事業務を実施した。

### ① 清掃事業部

白老町より委託事業を請け白老町総合保健福祉センター（いきいき4・6）の日常清掃業務作業の活動を実施した。地域住民が日常的に利用する公共施設内で行う委託事業であるため、地域との繋がりを大切に、評価、信用性を第一に意識するなど、業務上における事故防止などの安全に配慮し、日常業務に努めた。また、業務を通じて利用者個人が社会性や自立心を養い、作業技術の向上を図っていくため、月一回の支援者会議を行うなど、日常的に支援、指導を実施した。

## III、生活介護事業

利用者の障がい特性に応じた「個別支援」を課題に、ニーズに対応した活動の提供、関係性を考慮した環境を構築し、安定した日常生活が送れる様、支援を行った。生産活動では、珈琲豆焙煎・野草茶製造作業、下請け作業等を行う中、過度な負担とならないよう、季節に応じた創作・外出活動を企画・実施し、作業意欲の維持や向上、気分転換を図り、安心して活動が行える様に支援をした。また、大型モニターを設置し、療育活動の環境を整え多目的に活用した。軽運動（電動ウォーカー、エアロバイク・散歩・芝生を利用した活動）や、知育を主とした活動を行い情緒の安定を目指した。

医療体制では、ポプリ専従の看護師を2名体制で配置をする事で、利用者の健康管理や安全面、緊急時の対応に配慮した。

令和4年度に、特定技能実習生の採用を実施し、人材育成を行うと共に利用者の「個別支援」の更なる充足を目指した。

### 【生産活動】

#### ■自家焙煎珈琲

令和4年度は、感染症予防対策に努め、感染拡大に留意し生産活動を実施した。「ななかまど」や、国立博物館ウポポイ（民族共生象徴空間）「Sweets café ななかまどイレンカ」の営業は自粛する事なく、全体の集客数は増加した。収益に関しては昨年度より増収し、約150万円の売上を計上する事が出来た。

#### ■野草茶

令和4年度は、感染症予防対策に努め、感染拡大に留意し生産活動を実施した。「ななかまど」や、国立博物館ウポポイ（民族共生象徴空間）「Sweets café ななかまどイレンカ」の営業は自粛する事なく、全体の集客数は増加し、固定顧客を含めて安定した注文・販売があった。また、「白老町インフォメーションセンター」からクマササ茶・カキドオシ茶・黒豆茶・エント茶の取引があり、年間を通して総額約50万円の売上を計上した。

#### ■フードパックスラベル貼り作業

ダイエットクックより、安定したラベル貼り作業の依頼があり、同法人施設「みらいえ」と作業を分担して行った。令和4年度は昨年とほぼ同額の464,015円の売上を計上した。

## ■印刷作業

名刺作成作業では、法人内・役場・町内民間業者を中心に注文を受けた。点字の名刺が多岐にわたって定着してきたものと思われる。令和4年度は、企業間での人の往来も回復している傾向も見られており、年間を通して名刺の受注があり、44,919円の売上を計上した。

以上、令和4年度の収入は3,187,901円となり、昨年度収入2,794,064円と比較して393,837円の増収になった。

### 【創作活動・療育活動・余暇活動・外出活動】

創作活動では「母の日企画」「父の日企画」「ハロウィン企画」「バレンタインデー企画」「ホワイトデー企画」等、季節に合わせて活動を実施した。共生型事業所「はあもにい」の調理室を利用した「料理教室」は、感染症予防対策を行い実施した。

療育活動については、軽運動（ウォーキング・エアロバイク・電動ウォーカー）や、屋外での活動（芝生での軽運動）、看護師指導による姿勢や体幹を整える為の体操、口腔内ケアに努めた発声練習等を継続して実施した。プール活動は、感染症対策を行い5月～10月まで実施した。各活動時は感染症予防対策の為マスクの着用や手指の消毒、検温を実施し、安全対策を講じながら行った。各活動については適度な運動時間の確保・気分転換に努めることが出来、情緒の安定につながることが出来た。

余暇活動のカラオケでは4班に分けてポップ2階食堂を使用して、毎月カラオケを実施しており、歌うことで情緒の安定や気分転換にもつながり、余暇の充実を図ることが出来た。

外出活動は、季節に合わせて「水芭蕉見学」「花見」「果物狩り」「夏季レクリエーション」「秋季レクリエーション」を企画・実施した。「日帰り旅行」については、感染症予防の観点から広域での旅行は実施に至らず、10月に壮瞥の「くだもの農家 浜田園 ブドウ・リンゴ狩り」に変更して対応した。各行事を行う事で情緒の安定や気分転換につながることが出来た。

## IV、日常生活支援

### ・基本的な社会生活（挨拶・返事・マナー・ルール）の確立

日中活動を通じて社会的なマナーや身だしなみなどについて各部署にて必要な情報を提供し、利用者自ら問題を提起し話し合いが出来るよう支援を行った。

### ・自治会活動への支援

令和4年度の自治会活動に関しては、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、大規模な行事は中止し、各部署にて誕生会と全体会を利用者主体で実施し、必要に応じてサポートを行ってきた。

また、活気を持って日々の活動に参加していけるよう月間表彰を行い、個々のモチベーション向上に繋げた。

### ・行事の実施

令和4年度の行事については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会情勢を鑑みて全体で行う行事（バーベキュー、流しそうめん、新年会）を中止し、各部署少人数で感染症予防対策を行いながら実施した。

・行事内容

日程	主な行事内容
4月	水芭蕉見学（生活介護）
5月	GW営業（ななかまど・イレンカ） 春季就労学習会：ウポポイ、イレンカ店視察（ななかまど・清掃部） 春季就労学習会：町内飲食店の視察（パン工場） 桜見学（生活介護）
6月	夏フェア バスツアー受入れ（ななかまど） 果物狩り・イチゴ（生活介護）
7月	果物狩り・サクランボ（生活介護）
8月	食品衛生講習会（ダスキン）：パン工場、ななかまど、給食部、清掃部 夏季レクリエーション（生活介護）
9月	
10月	ななかまど30周年記念感謝祭 ハロウィンフェア 秋の果物狩り（生活介護）
11月	秋季就労学習会：パン・菓子店視察 in 登別方面（パン工場、給食部） 秋季就労学習会：パン・菓子店視察 in 苫小牧方面（ななかまど、清掃部） お歳暮企画
12月	調理学習会（ななかまど・清掃部合同） 冬季就労学習会：一年の振り返りと反省（パン工場・給食部） クリスマス・忘年会（生活介護） 年末餅事業
1月	初売り 成人の祝い 決起集会（ななかまど、清掃部） 新年会（生活介護）
2月	節分 バレンタインフェア 冬季就労学習会：目標の振り返りと次年度の目標について（パン工場、給食部）
3月	
自治会活動	<p>・自治会活動については、利用者が中心となり各種事業を円滑に進められるようバックアップを行った。大規模な行事は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止とし、活動については各部署にて実施。</p> <p>&lt;各部署にて行った主な活動&gt;</p> <p>・毎月一回誕生会と全体会                      ・月間表彰の実施。</p>

## V、健康管理

年1回の健康診断を実施した。その他、食後の歯磨き習慣、毎月の体重測定などを行った。健康診断については、検査結果により、本人、保護者、家族、又 GH 利用者は看護師や地域支援センターあぶろと連携しながら必要に応じて再検査や受診を勧めるなどの支援を行った。

インフルエンザ対策（予防接種・室内の保湿）やノロウイルスをはじめとする感染症、新型コロナウイルスの感染防止策として、マスクの着用や手洗い・手指消毒の励行、毎日の検温、次亜塩酸やアルコールによる消毒を行った。

まん延防止措置として白老町と連携し、利用者、職員がコロナワクチン接種を任意で2回実施した。

歯科衛生講習会は、感染症予防により歯科衛生士の派遣依頼は中止し、看護師を中心に口腔内ケアを実施した。職員が、定期的にブラッシングの仕方や仕上げ磨き、歯ブラシの状態などの確認を行った。

苫小牧保健所職員を招き、利用者さん向けに行っている食品衛生講習会も中止した。

今年度は、12月に法人内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、同室24h型 GH 利用者が罹患し、施設内外の活動を自粛した。その際、施設外支援を行い就労継続B型事業は、新作パンや菓子製造に向けた研鑽を行い、生活介護では「個別支援」に対応した療育・創作活動を実施した。

感染症予防の観点から、各種屋内外の行事や活動については、その時の状況を鑑みて、抗原検査、マスクの着用や手指の消毒、検温を実施した。

## VI、給食業務

安心、安全な給食提供に配慮し実施した。利用者への嗜好調査などを実施し、出来る限り要望にこたえ、季節感のある食事や行事食などの工夫を行った。

給食製造は食品事業給食事業部への作業委託とし、利用者2名に対し職員2名～3名の体制で技術支援を行いながら進めた。

その他、例年行われている行事食の提供（流しそうめん、BBQ等）を感染防止から中止しましたが、町内飲食店の協力のもと感染対策を行いながら、外食のマナー、新商品へのインスピレーション、接客の学習など、各部署で企画を立て外食支援を実施した。

## VII、管理業務

日常業務では、業務効率、安定した事業運営のための研鑽を行いながら事務処理の適正化を目指し業務を遂行してきた。法人内部研修（事務部会）を重ねて事業所相互の協力と連携をはかり、様々な課題提起とスムーズな問題解決に繋がるよう取り組んだ。

施設管理では、2階食堂に休憩スペース設置、ななかまど裏玄関にスロープ設置、生活介護棟の玄関扉の改修、ななかまどストーブの更新などを行った。また、円滑に業務が進むよう、パン工場に PHS3 台の導入と支援員用 PC3 台（パン工場、生活介護、ななかまど）の更新を行った。

研修関係では、新型コロナウイルス流行のため派遣しての研修参加はありませんでしたが、WEBでの研修に参加し、職員のスキルアップと次年度での加算取得に繋がる講習を受講した。

法人内部研修として、さくら総合会計を講師として行った次年度から始まるインボイス研修に参加した。

衛生・健康管理面では、毎日朝・夕方の館内消毒（トイレ、共用部分を中心に）を継続し未然に防ぐよう心がけた。冬季のインフルエンザ流行時期を前に集団予防接種（任意）、ノロウイルスはじめ感染症の予防強化、加湿器による活動室の湿度保持と換気などの工夫を含め、施設内での感染防止に力を入れた。新型コロナウイルス感染予防も含めさらに強化し、ワクチンの集団接種（計2回）を町と連携し法人全体で行った。また、備品消耗品の確保・備蓄に努めた。

防災・危機管理に関しては、津波を想定しての避難訓練を実施し利用者誘導の際の注意点や問題点を確認し、災害時の安全確保・心得、避難時の感染対策など学習する機会を持った。

白老町消防より講師を招き、職員対象に救急救命講習を行った。

広報活動では、従来の法人機関紙の発行、SNSを活用し店舗商品・イベントの宣伝など当施設の情報を発信した。

苦情解決に関しては、日頃より些細な利用者間のトラブルや悩み、家族の相談などに対し職員が都度時間をおかず直接対応し調整・解決すること、フォローアップを継続して行うことで、苦情としての取り扱いはなかった。

虐待問題については、全国的に未だ事件は絶えることなく発生しており、法人においては、管理者による定例会において苦情、虐待、身体拘束適正化における委員会を開催するなど、全職員を対象に年2回の虐待防止自己チェックリストを継続し啓発に取り組んだ。ポプリ内では定例会を通じて『虐待防止法、障がい者差別解消法』の振り返りと事件、事例をもとに、職員全体で意識を深めた。

実習等に関しては、養護学校や中学校などの職場体験や、行政からの紹介による利用者の受け入れはなく、日中一時支援事業の利用もなかった。

## Ⅷ 利用関係状況報告

就労活動	収支	総収入	96,822,932 円 + 積立取崩	438,350 円 + 補助金・繰入金	3,067,900 円
		(就労B)	93,635,031 円 + 生活介護	3,187,901 円)	
		総支出	94,522,322 円 + 固定資産	3,506,250 円 + 年度未積立	2,300,610 円
工賃支払い総額		22,338,113 円 (前年度実績 :		21,932,868 円)	
就労B事業		月額平均額	1名	36,446 円	生活介護
		月額平均額	1名	6,606 円	

### <定員構成>

\*5年3月31日現在

	定員	契約数	男	女	入所者	退所者	備考
生活介護	20	26	17	9	2	2	入所：宮川 退所：大西、宮地 異動：丸山
就労継続支援B	40	46	33	13	0	1	異動：丸山
合計	60	72	50	22	2	3	

### <年齢構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
生活介護	1	6	7	4	5	2
就労B	1	6	8	19	11	1
合計	2	12	15	23	16	3

最高齢者 73歳 / 最年少者 19歳 / 平均 41.3歳

### <在籍年数>

入所年度	4	3	2	1	30	29	28	27	26	25	24	23
生活介護	1	0	0	1	0	3	1	2	3	0	1	0
就労B	1	0	1	2	0	1	2	1	0	3	0	2
合計	2	0	1	3	0	4	3	3	3	3	1	2

入所年度	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	平均
生活介護	2	1	1	0	2	1	0	0	0	2	4	生活介護 12年 9か月
就労B	1	3	0	1	0	1	3	1	1	10	12	就労B 15年 9か月
合計	3	4	1	1	2	2	3	1	1	12	16	

### <障害区分>

療育手帳	A	B	なし	精神	身障	区分	2	3	4	5	6
生活介護	16	8	1	(1)	(4)	生活介護	0	2	12	5	7
就労B	10	36	0	(0)	(5)	就労B					
合計	26	44	1	(1)	(9)	合計	0	2	12	5	7

### <居住別>

	自宅	GH
生活介護	9	16
就労B	21	25
合計	30	41

生活介護平均区分 4.65

### <出身地別>

	白老町	登別市	苫小牧	札幌市	室蘭市	千歳市	江別市	伊達市	三笠市	浦河町
生活介護	13	1	8	1	1	0	1	0	1	0
就労B	21	6	9	2	4	1	1	1	0	1
合計	34	7	17	3	5	1	2	1	1	1

令和4年度の動向

	施設業務関係	就労B・生活介護事業関係	研修・行事他
4月	辞令交付式・永年勤続表彰 各種会議 (支援会議、職員会議、ケース会議、部署会議、運営会議、管理者会議) 会計事務所任意監査 特定技能実習生受入	利用者工賃3年度期末手当 (生)カラオケ・創作活動・水芭蕉 見学 (就)	強度行動障害 WEB研修 利用者全体会 利用者誕生会
5月	法人幹事監査 理事会 各種会議	(生)カラオケ・プール・創作活動・ 料理教室・桜見学 (就)よもぎ採取・就労学習会・工 場冷却室エアコン更新、PHS増 設	利用者全体会 利用者誕生会
6月	コロナワクチン接種 消防設備点検 理事会・評議員会 各種会議	(生)カラオケ・創作活動・果物狩 り・料理教室 (就)特定計量器検査	インボイス研修 仲間の会総会 利用者全体会 利用者誕生会
7月	コロナワクチン接種 会計事務所任意監査 避難訓練 健康診断 各種会議	(生)カラオケ・プール・創作活動・ 果物狩り・料理教室 (就)プレハブ冷凍庫設置・ななか まど作業場エアコン更新	サビ管更新講習 利用者全体会 利用者誕生会
8月	夏期休業 防災訓練 各種会議	利用者工賃夏期手当 (生)カラオケ・プール・創作活動・ 夏季レク (就)食品衛生協会巡回・食品衛生 講習会	サビ管更新講習 利用者全体会 利用者誕生会
9月	サビ調整会議・モニタリング 法人幹事監査 会計事務所任意監査 各種会議	(生)カラオケ・プール・創作活動 (就)	管理者事務員研 修 利用者全体会 利用者誕生会
10月	各種会議	(生)カラオケ・創作活動・外出活 動果物狩り (就)感謝祭・就労学習会	利用者全体会 利用者誕生会
11月	インフルエンザ予防接種 会計事務所任意監査 各種会議 法人幹事監査	(生)カラオケ・創作活動・焼き芋・ 料理教室 (就)就労学習会・お歳暮受注開始	救命救急講習 年金委員研修 利用者全体会 利用者誕生会

12月	消防設備点検 コロナワクチン接種 各種会議	利用者工賃冬期手当 生) クリスマス忘年会・カラオケ・創作活動 就) ななかまどクリスマスフェア・お歳暮・年越し餅販売・就労学習会	権利擁護指導者研修 利用者全体会 利用者誕生会
1月	会計事務所任意監査 各種会議	生) カラオケ・創作活動・新年会 就) ななかまど初売り・タイムカプセル事業・就労学習会	利用者全体会 利用者誕生会
2月	サービス調整会議・モチソグ コロナワクチン接種 集団指導 各種会議	生) カラオケ・創作活動 就) 就労学習会	外国人社会講座 インボイス研修 権利擁護伝達講習 利用者全体会 利用者誕生会
3月	三者面談 法人幹事監査 会計事務所任意監査 避難訓練 各種会議	生) カラオケ・創作活動・料理教室 就) 棚卸	強度行動障害基礎研修 利用者全体会 利用者誕生会
4月		利用者工賃4年度期末手当	